

カレッジ里山 花実の森 活動報告(2019年10月) 第115号

活動日	時間	天候	記録者
2019年10月10日(木)	9:30~12:00	(晴)	(菅田)
2019年10月23日(水)	9:30~12:00	(晴)	
13:00~16:00(里山G・花実の森合同ミーティング開催)			

参加者氏名 (10+17名)	(10月10日) 伊牟田雅子、菅田忠志、塩ノ谷年子、橋野美子、清水英暢、佐藤泰仙、俵貴志子、田路義弘、中西 優、若尾孝子、
	(10月23日) 伊牟田雅子、菅田忠志、黒子兵吾、小林澄夫、佐藤泰仙、塩ノ谷年子、清水英暢、俵貴志子、田路義弘、中原一子、南木久枝、橋野美子、松本治美、山田喜義、米倉 進、中西 優、若尾孝子、

今月実施した 作業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 花実の森 林縁奥のカブトムシ産卵・生育場所の腐葉土は古くなったため撤去し、林内に散布。生育場所の跡地の整地を行う。 2. 神戸新聞ミニコミ紙(神戸市北区、三田市、西宮の一部)“まち・えがお”から活動取材を受け、11月1日に発行配布されました。 3. 4日後に開催する今年度最後の親子カブトムシ観察会(3回目)の準備作業と、林内安全確認作業を実施。大きなキイロスズメバチの巣を発見、イベント時最大の安全確保内容を確認した。 4. 10月23日午後、里山グループと花実の森による合同ミーティングを行った。(議事録別途発行)
----------------	---

10月10日



林縁奥に設けていたかつての産卵・生育場所の腐葉土も古くなり、自然産卵は望めなくなっているため、今回撤去し整地した。周囲をかこっていた金網木枠も撤去。



古い腐葉土(カブトムシ幼虫が食用として食べ終わった土)は、もう生育には適さないと判断。袋に詰めて花実の森林内に散布するべく袋詰め。





毎回お楽しみ 終了時の一服茶会。
お疲れさま。

ここは力仕事、男性メンバーの出番？ いやいや若手の女性陣も運搬作業にかかわっていただきました。ご苦労さま。



今年作り集めてきた新しいチップの山には、新生カブトムシの命が育っている。来る 27 日の「親子観察会③」終了後は、イノシシ除けに金網木枠を設置するが、今は仮の防御処置として、金網木枠を上乗せしておく。



どこからの情報かはわからないが、花実の森の活動に対し、今回神戸新聞のミニコム誌“まち えがお”（北区・三田地方）の女性記者から“花実の森”の取材の申し入れがあり 10 月 10 日に取材を受けました。下記はその掲載記事です。

=====

(神戸新聞ミニコム誌掲載記事)



「花実の森」の活動風景＝北区しあわせの村

親子で里山学びカブトムシ観察

北区しあわせの村

花実の森

しあわせの村シルバ
ーカレッジ卒業後のポ
ランテニア活動拠点と
して平成9年、「NP
O 法人社会還元センタ
ーグループ わーが立
ち上げられました。そ
の数あるグループの1
つ「花実の森」は、毎
月第2木曜、第4水曜
の午前中に活動中。メ
ンバーは25人です。
主な活動は里山整備
ですが、里山にはカブ
トムシの幼虫が結構い
るのに気付き、その生
育を観察するために、
5年前から親子の参加
を募りました。毎年20
家族ほど参加し、春、
夏、秋の年3回の観察
会をしています。産卵
場所作りから幼虫、成
虫になるまでを観察。
成虫を持ち帰り、卵か
らの飼育に取り組んで
います。また里山の特
徴を学びながら、落ち
葉でアト作りやドン
グリ工作、ドングリの
苗植えをしています。
メンバーの1人の橋
野美子さんは「子ども
も大人も喜んでいま
す。風や土、花、四季
折々違う体験が出来ま
す。虫にも優しくなれ
ますよ」と話していま
す。「自然環境の楽し
さ、大切さを学んでも
らいたいですね。親も
子どもとも楽しんでい
ますよ。親子の活動場
所として、これからも
できる限り継続してい
きたいと思っています」と
代表の菅田忠志さんは
抱負を話していまし
た。

「シルバ
ーカレッジ
卒業生でな
くてもO
K。若い力
は大歓迎で
す」とメン
バーも募集
中です。グ
ループはわ
040ル中
1371ブ
・8・8
・8・8
17わ

10月23日



ネザサ刈りも大事な活動、秋の里山親子観察会を控え、周辺手入れにも力が入る。子どもたちに植樹をしてもらう場所の準備作業や、その周辺の安全確保、イバラやかぶれの心配のある草などの刈りこみも大事な作業。



植樹苗木の支柱の準備も整った。



今回の準備作業中に大きなスズメバチの巣が見つかった。ヘルメット4個分くらいの大きさがありそう。早速立ち入り禁止のロープを設置。予定していたこの近くでの植樹も回避することとした。12月もなれば空き巣になるので、可能であれば教材用に回収したい。



左:オケラ 右:コウヤボウキ
よく似ているが葉の形が異なる。

秋の草花“オケラ”が咲き始めた。
ちょっと似た花の“コウヤボウキ”とならんで秋の里山を楽しませてくれている。